



第558号

学校だより

9月号

横浜市立東本郷小学校

令和5年 8月 29日

ひとにやさしくありがとうの^{こころ}で ^{いっしょ}がんばる^{いっしょ}がんばる^{いっしょ}最後まで ^{ほんま}本気で^{くみあ}取り組む^{ひが}ひが^{ほん}ほんの子

外で遊べない夏

学校長 ^{どうごし}堂腰 ^{やすひろ}康博

38日間の夏休みが明け、元気な声が校舎に戻ってきました。子どもたちはそれぞれのご家庭や故郷、旅行先で充実した日々を過ごしたり、自由研究に精一杯取り組んだりして、多くの収穫を携えて登校初日を迎えたことと思います。夏休みの思い出やがんばってみたことの苦労話など子どもたちには伝えたい思いがたくさんあるようです。

この夏は、近年の気候変動の影響で、経験したことがないほどの猛烈な暑さが続きました。（この原稿を書いている今も全国で続いています。）キッズクラブや学童保育では、せっかくの楽しい夏休みなのに、屋外での遊びを控える日が多くなり、室内遊びに切り替えていらっしやいました。昭和・平成の子ども時代を知っているみなさんはきっと、「自分たちが子どものころはこんなじゃなかった…」と楽しいはずの夏を、子どもの成長にとって宝物のような夏を、ただ耐えるだけの夏にしていいのかと、疑問や心配を抱いたこともあったのではないのでしょうか。

気象庁が発表した長期予報によると、9月から11月にかけての3ヶ月間も、暖かい空気に覆われやすく広い範囲で気温が高い傾向が予想されています。カナダやハワイマウイ島をはじめ、世界各地で熱波の影響とみられる山火事や干ばつが起きたり、台風や大雨による洪水被害が頻発したりして、「地球が本当におかしくなっているのでは？」と、気候危機への不安を実感された方も多いと思います。国連のグテーレス事務総長は、自然要因だけでなく人間の行為によって気候変動が起きていることを憂い、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代に入った。」と7月の記者会見で述べました。一方で「最悪の事態はまだ食い止めることができる。しかし、そのためには燃えるように暑い年を、燃えるような野心の年に変えなければならない。」と各国の政府に対して気候危機への対策を求めました。今を生きる子どもたちに、かつてのように屋外でも存分に楽しむことができる夏を味わわせてやれるようにするにはどうしたらいいのか、解決に向かって大人たちが本気で考えていかなければならないと思っています。

少し前のことになりますが、緑公会堂で行われた「よこはま子ども平和スピーチコンテスト」緑区の審査会で、6年2組の宇野彩音さんが東本郷小学校の代表として、スピーチを披露してくれました。2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)に関連付け、環境問題の視点から、目標に向かって行動することの大切さを力強く発信してくれました。スピーチの原稿は、この学校だよりの中で全文掲載いたします。ご一読いただき、国際平和のために、地球のために何ができるのか、考えていくきっかけにしてもらえればうれしいです。



厳しい暑さの中でも東本郷のまちでは、お祭りや「デイキャンプ」等のイベントが数多く開催され、子どもたちは楽しむことができ、多くの方々とつながっていることを感じたことと思います。夏休みの間も子どもたちの健康や安全を見守り、たくさんのお力添えをくださった地域のみなさま、キッズクラブや学童保育のみなさま、保護者のみなさまに心から感謝申し上げます。これからも引き続き、どうぞよろしく願いいたします。